

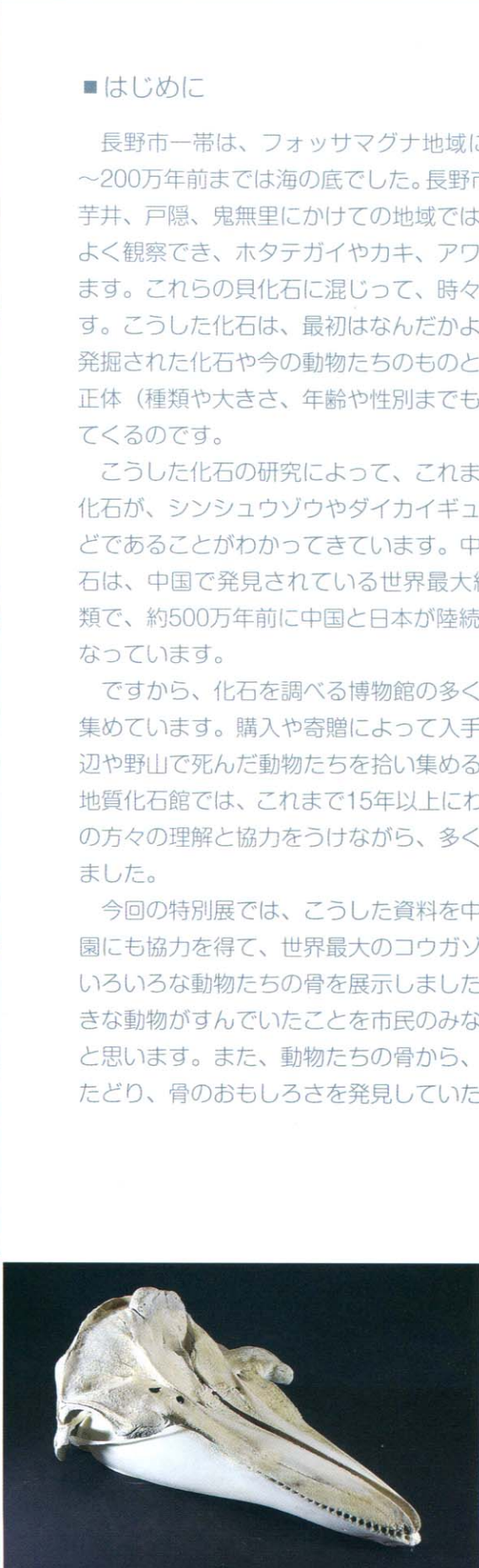
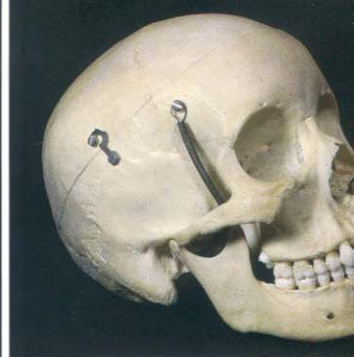
骨の動物園

Contents

はじめに	1
哺乳類とは	2
骨の動物園を楽しむために	4
骨で見る動物たち	
1 身近な動物たち	6
2 ユーラシア大陸（旧北区）の動物	20
3 東南アジア～オセアニア（東洋区・オーストラリア区）の動物	24
4 アフリカ大陸（エチオピア区）の動物	28
5 南北アメリカ大陸の動物	33
6 海にくらす動物	40
7 ソウの仲間たち	50
8 ヒトの仲間たち	54
9 くらべてみよう	60
頭の骨をくらべてみれば —比較骨学のすすめ—	犬塚 則久 62
コウガソウとはどんなソウだったのか —戸隠で発見された化石ソウの来た道をさぐる—	高橋 啓一 72
骨の標本をつくる！	80
展示資料リスト	81
協力者一覧	84

凡例

- 1 本書は、平成18年7月23日より9月10日まで開催の長野市立博物館第51回特別展「骨の動物園」の解説図録です。
- 2 図版は展示資料の一部を掲載しました。展示の順序とは一致していません。
- 3 図録には、犬塚則久博士（東京大学大学院医学系研究科解剖学講座）および高橋啓一博士（滋賀県立琵琶湖博物館）の2名より玉稿をいただきました。また、藤森英二氏（小海町）作成の動物模型の写真を掲載しました。これらの写真も同氏撮影のものであります。また、展示企画、資料調査、写真提供などについて、巻末にあげた多くの機関ならびに個人の方よりご援助・ご協力をいただきました。
- 4 本文中の敬称は省略させていただきました。
- 5 本書に掲載した標本類の写真は、博物館職員が撮影したものです。
- 6 動物の体長は、陸上動物の場合、鼻先から尾の付け根までの長さ（頭胴長）です。クジラ類やカイギュウ類の場合は、上あごの先端から尾びれまでの長さを示しました。



■はじめに

長野市一帯は、フォッサマグナ地域にあたり、今から約2000万～200万年前までは海の底でした。長野市西部の信更町から小田切、芋井、戸隠、鬼無里にかけての地域では、この海にたまった地層をよく観察でき、ホタテガイやカキ、アワビなど貝の化石が見つかります。これらの貝化石に混じって、時々骨や歯の化石が見つかります。こうした化石は、最初はなんだかよくわかりませんが、よそで発掘された化石や今の動物たちのものと比べたりすることで、その正体（種類や大きさ、年齢や性別までも）がしだいに明らかになってくるのです。

こうした化石の研究によって、これまでに長野市から発見された化石が、シンシュウゾウやダイカイギュウ、オットセイやクジラなどであることがわかってきています。中でも、シンシュウゾウの化石は、中国で発見されている世界最大級のコウガゾウに近縁な種類で、約500万年前に中国と日本が陸続きであったことの証拠ともなっています。

ですから、化石を調べる博物館の多くは、動物たちの骨の標本を集めています。購入や寄贈によって入手する場合がありますが、海辺や野山で死んだ動物たちを拾い集める場合がほとんどです。戸隠地質化石館では、これまで15年以上にわたって、地域やサポーターの方々の理解と協力をうけながら、多くの動物たちの骨を集めてきました。

今回の特別展では、こうした資料を中心に、各地の博物館や動物園にも協力を得て、世界最大のコウガゾウの骨格をはじめ、各地のいろいろな動物たちの骨を展示しました。長野市にかつてこんな大きな動物がすんでいたことを市民のみなさんに知っていただきたいと思います。また、動物たちの骨から、生命の秘密や進化の道筋をたどり、骨のおもしろさを発見していただければ幸いです。

長野市立博物館

